

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ゼン・モード	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ゼン・モード

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番

研磨剤

比較対照ボール：ゼン・ゴールドラベル

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

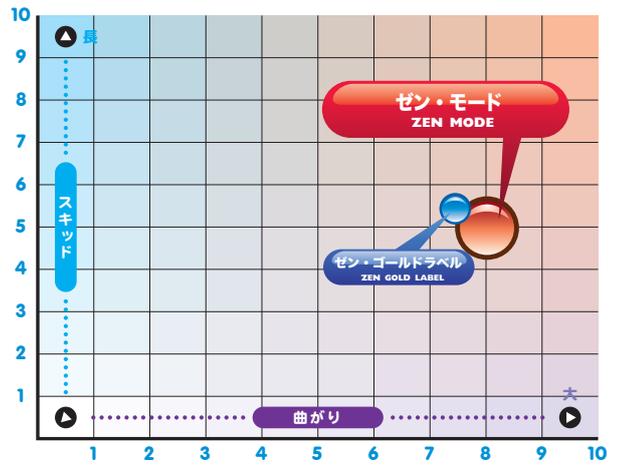
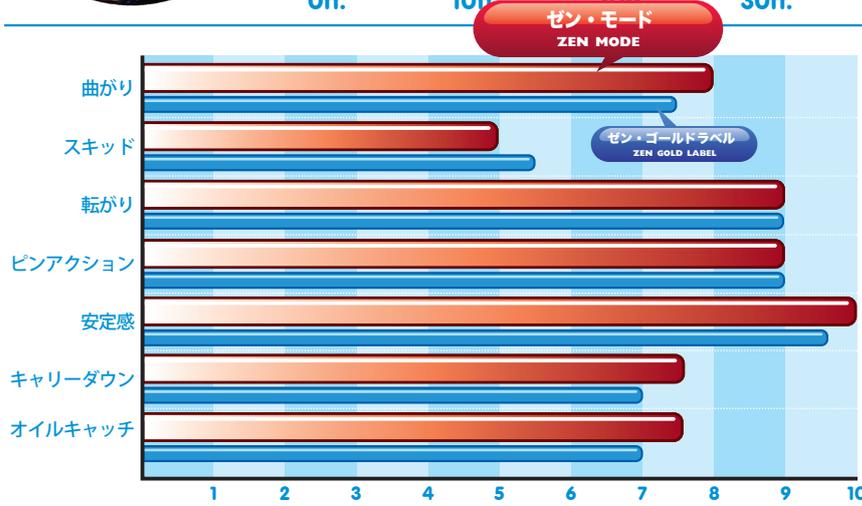
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

現在発売されているボールの中でラインナップを組むことを考えた場合、カバーストックの強弱とコア形状までを考慮しパフォーマンスとして置き換えなければならないでしょう。カバーストックの特性もさることながらやはりコア形状の吟味は欠かせません。その中でも特にゼン シリーズのメディエイトコアは、ヘビーウエイトコアの物理的特性と対称コアならではの特徴である転がりの持続性を活かし、ピンヒットまで転がりが維持できることで安定した軌道とリアクションを実現し、扱いやすさのなかに攻撃性までを兼ね備えています。その特異性と幅広いコンディションや様々なシチュエーションで使用できることが、多くのボウラーにゼンが愛される理由なのだと思います。

今までのゼンシリーズは主にS77 リアクティブが用いられ、コントロール性を前面にだす方向性と手前の軽さというものを念頭に開発・発売されてきました。カバーストックの強さとコアの強さ双方の相乗効果のバランスを生み出すその一方で、メディエイトコアの特徴をさらに際立たせたい場合、カバーストックの領域の変化と表面加工の変化各々のバランスを考えなければなりません。今回のゼン・モードはS79 リアクティブに置き換え、カバーストックそのもののグレードは上げますがパール仕様にする事で、今までのゼンシリーズのスキッド感を維持しながらオイルに対してより安定感を求めたスペックに仕上げました。やはりカバーストックの領域が上がったことで全体的なキャッチの強さは増していますが、ブレーキが前面に現れないようにパール仕様が良い仕事してくれています。特にフックからロール期の安定感が増しているため、オイルの挙動も少なく、より安定したリアクションを感じていただけたと思います。

特記事項

S79リアクティブにグレードアップすることで、よりゼンの安定感を意識できる仕上がり。転がり重視のゼンシリーズですので、フランチャイズのコンディション含め、安定した軌道を求める方には欠かせないボールです。